

平成30年度 第3回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日時 平成30年6月29日（金曜日） 15時から16時50分まで

会場 東京都心身障害者福祉センター 12階研修室

出席者 吉川委員長、奥秋副委員長、秋谷副委員長、宮田副委員長、浅野委員、三瓶委員、深澤委員、
会田委員、久保委員、山本委員、鈴木委員、橋爪委員、平田委員

13名出席（相良委員、清水委員 欠席）

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長森下 他7名

1 開会

吉川委員長	・開会宣言
事務局	・東京都心身障害者福祉センター地域支援課長挨拶 ・出席状況報告 ・資料確認 次第 第2回検討会議事録【要旨】 資料1 第3回検討会の進め方 資料2 研修実施概要（分野別研修） ・本日は全体会のため、配布資料や議事の内容については東京都心身障害者福祉センターホームページにて公開をする。なお、本日、第1回検討会についての内容が公開となった。 ・本日は傍聴者なし。

2 第3回検討会到達点の確認

吉川委員長	・前回の検討会では、基礎研修、実践研修、更新研修の獲得目標をまとめていただいた。 ・それぞれの獲得目標は、 基礎研修：個別支援計画の「必要性」と「やり方」を伝えること。そして、個別支援計画作成、プロセス管理、サビ管の全体像 実践研修：プロセス管理、チームマネジメント、地域や関係機関との連携、リスクマネジメント 更新研修：後進の育成、地域課題に取り組む、分野を知る。 ・本日は、それぞれの研修の目標について学ぶためには、どのような事例が適切かについて検討することが大きな目的となっている。 ・最終的な成果物として、「事例のまとめ」を模造紙に作成していただくことを想定している。 ・「事例のまとめ」は、中心に本人がいて、本人はこんな人、障害に関する説明、サービス種別、この事例にした理由などを書いていただけたらと思う。 ・「事例のまとめ（例）」を貼り出しているが、いくつか書き込みがある。これは、
-------	---

	<p>事前に各チームリーダーと打合せをさせていただいた中で出た内容になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前打合せでは、例えば、医療的ケアがあるなどの重い事例を出すと、医療モデルに着目した計画に引っ張られてしまいがちになるが、それよりも、本人のストレングスに着目できるような事例の提示をした方が良いという話も出ていた。 ・基礎研修の段階では、家族も資源にする発想で計画を立ててしまう。また、知的障害が最重度の場合、本人には何を言ってもわからない、といった扱いを最初からしてしまうが、本人の認知力に応じた関わり方があるはず。そのようなことも検討してほしいということも出ていた。
--	---

3 事例の検討

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回も、前回の検討会と同じように作業チームに分かれて意見交換し作業を進めていただく。 ・委員の皆さんには事前の準備として、どんな事例がいいか、また、その事例を選んだ理由をメールで送っていただいているが、その内容も印刷し資料としてお手元に配付している。 ・使う事例の要素の足し引きも検討していただくことになる。 ・事例を使用しないというチームは、委員長に声をかけていただきたい。他チームに入っていただくため人数調整をしたいと思う。 ・まず、作業チーム毎に良いと思った事例について意見交換し、素材となる事例を決めてほしい。 ・15時50分くらいまでに各チームで事例の検討を進めていただきたい。 ・事例の素案が決まったら皆さんと共有し、質疑応答を受ける。そして、後半は、模造紙にまとめを作成していただきたいと思っている。 ・この後の進行は、各チームリーダーにお任せする。
-------	--

○ 事例の素案作成（チーム作業）

○ 事例の素案発表

<更新研修チーム>

秋谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修の中で、事例の検討は難しいという結論になったため、ねらいの要素としてあげた「後進の育成」「地域の課題」「他分野を知る」ことについて再確認した。 ・他分野を知ることについては、吉川委員長からもご意見をいただいたが、性教育のことについても入れていけると良いかと思う。また、地域の課題に取り組むということでは、地域と連携しないと解決できない課題がある利用者の支援に困っている職員の事例を知りたいなどの話が出た。 ・事例のことは作り上げられなかったが、本日欠席している委員から児童発達支
--------	--

	援についての意見も出ており、6時間の中でどういったカリキュラムができるかを話した。
--	---

<基礎研修チーム>

奥秋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修なので、いろいろなものを入れずシンプルな事例にする。 ・この基礎研修チームのメンバーは、昨年度の国の指導者養成研修で基礎研修の内容を研修してきた。その時の事例は、精神障害を持つ就労継続支援 B 型を利用している人という設定だったが、取りかかる前から、児童分野の方は「私たちは大人のことはわからない」という雰囲気があった。そのため、児童分野の方も関わりやすいような要素を入れていかななくてはいけないという意見が出た。 ・ベースとして、第3分野（地域生活）の事例で考えた。 ・障害状況は、それほど重くない知的障害。知的障害だけではぼやけてしまうため発達障害も併せ持ち、うつ病の経験がある。 ・成育歴は、学校が頑張って就職させたがリタイアしてしまい、そこでうつ病を発症するとした設定を考えた。 ・連携というところでは、計画相談はあるが、就労継続支援 B 型と就労支援センターとの連携をどう取っていくか。 ・家族は、25歳くらいの女性にすると、父親と衝突がある想定が良いかなど、家族構成については後半の話し合いで考える。
--------	---

<実践研修チーム>

宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修と似ているが、19歳の男性。 ・高校を卒業し就職したが、わりと短期で辞めてしまい、就労支援に繋がった。 ・相談支援継続の時期の関わりがあったので、自宅に引きこもったりせずになんとか就労支援に繋がった。狭間で支援が切れそうなところを繋いでいく大事なキーポイントとなるような場面になると良い。 ・実践研修では、機関連携を深めて考えられる事例にしたい。高校や放課後等デイサービスに通っていた、定着支援を受けていたのに上手くいかない、相談支援は関わりがありなんとか就労支援に繋がったなど、いろいろな機関が関わっている場面になると良い。 ・家族へも関わりを持つ事例にしたい。 ・障害状況は、知的障害と発達障害を持っているグレーゾーンくらいの方。 ・真面目だが、指示が分からず混乱して怒ってしまい、就職が継続できなかった事例を考えた。
--------	--

吉川委員長	・事例の発達レベルはどのくらいで考えているか。
-------	-------------------------

宮田副委員長	・実践研修は、グレーゾーンで軽めにと考えている。
--------	--------------------------

奥秋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修の発表を聞き、基礎研修は実践研修より若干重めの設定になるかと思った。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 発達レベルについて、同じ程度ではなく両研修でバランスが取れると良い。 家族関係はどう考えているか。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修は、関係機関が多く、連携に焦点を当てていきたいと考えているため、家族にドラマチックな要素が入り過ぎると收拾がつかなくなるかと思う。 本人のニーズと家族のニーズが大きくずれていて調整が必要なケースではなく、本人にきちんと寄り添ってくれるような家族を想定している。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> チームリーダーとの事前の打合せでは、本人のニーズと家族の要望と支援者の考えが行き違った時に、サビ管の力が問われる、といった話も出ていたが、その辺はどちらの研修も絡んでこないということになるか。
奥秋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修は、後半の話し合いで家族について考える。

○事例のまとめ作成

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> この後は、まとめの作業に入っていただく。時間は、16時40分までとする。 更新研修チームは事例なしとの結論になったため、他チームの話し合いに参加する。
-------	--

○事例のまとめ作成 (チーム作業)

○事例のまとめ発表

<基礎研修チーム>

深澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 25歳女性、父母と1人っ子である本人との家庭で、本人は愛情をいっぱい受けてとても大切に育てられた。 両親は療育熱心で勉強をたくさんさせていたが、そのため、数字が苦手になり数字を見るとじんましんが出てしまう。 子どものころの療育の記録が残っていて、放課後等デイサービスに行っていた。 両親の気持ちとしては、就職してほしいと思っている。 人が好きだが、人間関係が上手く取れないところがあり、人が好きだが人が怖い。 特別支援学校から就職したが、人間関係でのもつれでリタイアしてしまう。 服飾系が好きでおしゃれが大好き、スカートを自分で作りたいと思っている。 ジャニーズも大好き。同じ施設に片思いの人がいるのではないかなというところ。 就職はしたいと思っているが、本人も分からずぼんやりしているイメージ。 愛の手帳3度、発達障害傾向がありうつ病の経験がある方。 このような事例にした理由は、シンプルにした方が良いと考えたため。また、連携も大切だが、複雑な内容に引っ張られないようにというところを配慮した。
------	--

<指導者養成研修チーム>

<p>宮田副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修の事例と重なってしまうのが気になっていて、皆さんにご意見を伺いたい。 ・名前は「たかしさん」、19歳男性、軽度知的障害と発達障害があり、愛の手帳4度を持っている。 ・実家暮らし、母親が熱心で積極的で早く就職してもらいたい、できるはずと思っている。父親は関心が薄い。 ・特別支援学校卒業後に企業へ就職するも3か月で退職。仕事に追いつけず、薬を飲まなくなってしまう、不調になり退職した。 ・ストレングスは、真面目で電車が好き、就労意欲あり、親孝行したいと思っている。 ・指示された事が分からないと言えずに「はい」と返事をしてしまうが、実は分かっていなくてストレスになってしまう。 ・皆さんが支援をしたくなるような愛嬌のある方 ・分からないことがあると、その時は我慢するが、積もり積もって混乱してくると怒ってしまう。 ・就労移行支援事業所のサービス管理責任者が、今回の個別支援計画を作ることを想定している。 ・関係機関は、就労支援事業所と相談支援事業所。退職後に相談支援事業所が支援したことにより就労支援事業所まで繋がることのできた。他には、服薬もしているので病院、特別支援学校や放課後等デイサービスからも情報収集できると良いと思う。 ・事例設定の理由としては、テーマが機関連携のため、他機関連携が入っていること、そして生涯発達を考えた。成長の節目にあるケースが良いかなと考えた。
<p>吉川委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、シチュエーションが似た感じになったが、どう調整したら良いか。同じでも良いか。
<p>宮田副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心な家族が重なるため、家族の設定を変えるのも良いかもしれない。
<p>山本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、このような背景でグループホームに入所となり、グループホームのサービス管理責任者として生活面を取り組んでいきたいが、就労支援事業所とのすり合わせが必要といった設定も出ていた。そうすると、19歳の年齢設定は考えた方が良いかもしれない。
<p>宮田副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し検討が必要。確かに流れとしては、基礎研修の年齢が若くて実践研修が少し上の年齢にすると、ケースが繋がっていると考えられるかもしれない。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度までに作らなければいけないのは、基礎研修と更新研修になる。そのため、実践研修の事例は温めていただき、基礎研修が固まった後に要素を考えながら作り直しても時間的には間に合う。

吉川委員長	・決めなければならないのは、基礎研修を若くするか否か。
事務局	・基礎研修の25歳が重要ということであればそれで良いのではないかと思う。
深澤委員	・25歳は原案の事例に引っ張られた。若くしてもあまり問題ない。ただ、若すぎると結婚願望が夢で終わってしまう。療育のところを絡めたいと考えているので遠からずではある。
吉川委員長	・基礎研修は25歳とし、それを踏まえて実践研修の年齢を適宜設定してほしい。

4 事務連絡と閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールについては、既に開催のご案内をしているが、第4回・第5回・第6回は基礎研修チームと指導者養成研修チームに実際のカリキュラム作りと細かな部分について検討をしていただく会議となる。 ・第7回は全体会となるが、国の指導者養成研修の報告を中心に行いたいと考えている。 ・情報としてお伝えするが、先日、相談支援の国の指導者養成研修があり、国立リハビリテーションセンター学院のホームページに資料が公開されているので、参照していただきたい。 ・研修の中で、厚生労働省の方から、新しい研修についての告示の改正が遅れていると話があった。相談支援のカリキュラムについて当事者団体から意見があり調整しているためであり、相談支援のカリキュラムの改正がだいぶ遅れ込むかもしれないと口頭で説明があった。 ・サービス管理責任者研修の基礎研修には、現在、2日課程となっている相談支援の研修がついており、サービス管理責任者研修の告示とも関係する内容であったため、この場で報告をさせていただいた。 ・9月に国の指導者養成研修の予定が示されており、更新研修チームの方々に受講していただくことになっているが、そこでも制度改正の具体的な手順については情報提供があると思われる。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に全体で集まるのは10月となる。それまでの間、7月・8月は各チームで検討していただくことになるのでよろしく願いしたい。 ・閉会